

素は何かなどを中心課題としてとりあげた。

2. 奈良市内の農村・商業・住宅地区の3地域について農家・商家・ホワイトカラー層各120家庭の主人と主婦の両者を対象に聞き取り調査を行ない検討した。

今回はそのうち農村地区（農家）について報告する。

3. 家事労働の価値意識についてみると、他の収入を得る労働（農業・商業・勤務など）と比較して同等の価値ありと認めるものは主婦より主人に多く、しかも純農より兼農の方に多い。また理想的な主婦のありかたとしては全般的に家事中心を望む人が多いが、少なからず経済状態と関連があるようである。

C-20 家事労働の評価 奈良市農家の場合

奈良女子大 ○渡辺みよ子
北村 君

1. 近年家事労働は家庭の細分化、主婦の職場進出、電気製品の普及などにより総体的には時間的内容的には変化をきたしているが、個別家庭の家事労働実態の相違は依然として存在する。これは社会的風潮もさることながら、個々の家庭の生活諸条件たとえば家族構成・経済状態・職業・家族員の意識などにより大いに左右されるためである。家事労働については、すでに時間的分析・内容的分析ともに多くの報告がなされているが、家事労働の評価にあたっては、時間と内容との関連において、また、それらと家庭生活諸条件との関連においての総合的分析が必要である。本研究では、まず、第一歩として家庭生活諸条件との関連のもとに、家事労働がどのように意識されているか、家事労働実態に影響をおよぼす要